

2017 年度 盛岡 YMCA 事業計画

1. 全体行動目標

盛岡 YMCA が行う全てのプログラムを通して以下の価値を子ども、家族、地域に伝えて行く。

- (1) 他者の悲しみを自分のことのように悲しむことができること。
- (2) 他者の喜びを自分のことのように喜ぶことができること。
- (3) 自分がしてほしいことを他者にもすることができること。

2. 基本聖句

喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。

ローマの信徒への手紙 12 章 15 節

3. ブランドスローガン (※1)

君でいいんだよ

※1 ブランドのコンセプトや世界観を一言で表現したコピー。広告などのコミュニケーションで使用されるだけでなく、団体内、組織内で自分たちが何者なのか、どこを目指すのか、どういう気質の団体なのかなどを共有するのにも役立つもの

4. チャレンジ (※2)

盛岡 YMCA は他者のために存在する。自己目的のためだけに存在するのではない。

※2 YMCA のような民間の非営利公益団体が、ミッションと事業を両立させていくことは多くの困難を要する。過去において、いつしか手段が目的化し、本来の方向性を見失いかけた危機を YMCA は、その歴史の中に内包している。こうした過去の反省にたち、盛岡 YMCA のチャレンジとして 2016 年から新たに事業方針の中に盛り込んだ。

5. 盛岡 YMCA が進むべき方向性

私たちが住む岩手県は、東日本大震災、台風 10 号とこの 5 年間の間に 2

度の大きな自然災害に見舞われた。2011年3月18日から盛岡YMCAは宮古にボランティアセンターを設置し被災地復興支援活動を継続してきたが、その中で私たちが学んだことは、復興へ向かう過程でその地域が災害以前に抱えていた課題に直面するということである。宮古においては経済の停滞、貧困の格差の拡大、少子高齢化、若者の地元離れが大きな課題だった。しかし、このことは盛岡においても同様である。人口減は、遠い将来のことではない。盛岡市が発表した統計によると、0歳から14歳までの年少人口は、2015年は37,182人であったのに対して15年後の2030年には、27,113人と約10,000人の減少。一方65歳以上の老年人口は74,252人から86,779人と約12,000人増加する。

この数字を見ると盛岡YMCAは、早急にシルバー事業へと事業構造をシフトさせていくことが必要に思われるが、小さな盛岡YMCAが何のノウハウを持たないまま参入することは大きなリスクを伴う。盛岡YMCAは、他のYMCAの成功事例を学び、地域の状況に合わせてその内容を地域の置かれた状況に合わせて修正し、事業を立ち上げ継続してきた歴史がある。また、全国のYMCAに目を向けてみると老人ホーム、デイサービス等シルバー事業に参入しているYMCAもあるが何も中規模もしくは大規模のYMCAの行う事業であり、YMCAトータルで見るとその数は多くはなく、他の団体に対してノウハウの上でも規模の上でも抜きん出たものとは言い難いのが現状である。

日本のYMCAは青少年の育成をその事業の大きな柱に掲げ、その時代時代の課題に対応したプログラムを開発し、実践してきた。また、その過程で多くのノウハウとリソースパーソン、ネットワークを獲得してきた。この培ってきた青少年育成に関するパワーを生かし、シルバー世代をいかに有機的につなげていくかがこれから全国のYMCAの課題である。現に他のYMCAにおいては様々な取り組みがなされつつある。

幸い、盛岡YMCAはここ5年の間に宮古を含め4つのセンターを持つ体制になった。このうち盛岡の3箇所は、市からの委託を受けての学童保育事業である。学童保育事業をベースにサッカー、水泳、野外活動等のウエルネス事業にリンクさせ、そこに集う子供、家族、さらには地域に対して盛岡YMCAの基本聖句に現される「喜びを共にし、痛みを分かち合う地域社会」という価値を伝えていく。

そのためには、それぞれのセンターにおいて地域に働きかけるアクション

ンをスタッフだけでなく、地域社会のリソースパーソンとの関係性を構築しなら進めていくことが必要だ。そのことがやがてシルバーや、少子高齢化を含め地域の抱える様々な課題に対しての具体的なプログラムの開発につながって行き、ファンドレイジング、行政からの委託を含めた自立したプログラムへと成長していくことになるだろう。

盛岡 YMCA が 2016 年からミッションに加え、あらたに掲げたチャレンジ「盛岡 YMCA は他者のために存在する。自己目的のためだけに存在するのではない。」に根ざし、地域が本来必要とするプログラムを全国 YMCA の取り組みを参考にしながら、地域社会と協働して開発、実現していく。そこに予算もつけ、人を配置し寄付も募り事業として長期間にわたり継続させていく仕組みを作り上げていくことを目指す。

6. 2017 年度盛岡 YMCA 事業計画

維持継続することを主たる目的とする YMCA から財政的、組織的、ネットワーク、リソースパーソンの増強に努めながら、社会の課題に取り組む YMCA へとステップアップを宣言し、YMCA の活動を通して参加するメンバーやその家族、ボランティアリーダー、ワイズメンズ、ボードメンバー、スタッフが互いの関係性の中で共に成長していくことができる、仕組みと組織としての文化を作り上げていくことに向けて具体的なチャレンジを開始する年とする。

1. 盛岡、宮古において地域の抱える課題に取り組む YMCA 作りの実現に努める。

- (1) 盛岡 YMCA 中期計画「ACTION2020」を策定する。
- (2) 各センター、各事業が行うプログラムを通して参加する、こども、家族、地域に盛岡 YMCA の伝えたい価値を伝える。
- (3) 発達障がいを抱える人たち、その家族を支援する活動に取り組む。
- (4) いじめの問題に取り組む。
- (5) 貧困の課題に地域の団体と協働しながら取り組む。
- (6) 地域の関連する諸団体とのネットワークを構築し積極的に交流する。

2. 全体行動目標の実現に向けて、盛岡 YMCA の財政的、組織的な基盤を強固なものにする。

- (1) 日本 YMCA 同盟の加盟基準ならびに総務ハンドブックに基づいて、会則、諸規定を整備する。
- (2) YMCA 運動を推進するエンジンである職員の資質の向上、ボランティア、役員 of YMCA 理解の向上に努める。
- (3) 維持会員、ボランティアリーダー、社会人ボランティア、ワイズメンズクラブなど、リソースパーソンの増強に努める。

3. 世界の YMCA、日本の YMCA の推進する運動に積極的に協働していく。

- (1) 世界 YMCA 同盟が推進するユースエンパワメントに積極的に取り組む。
- (2) 国際協力募金を会員を含め積極的に推進する。
- (3) 被災地復興支援活動に取り組む。
- (4) 日本の YMCA の進めるブランディングに盛岡 YMCA のアイデンティをしっかりと確保しながら協働していく。
- (5) 海外の YMCA とのパートナーシップを結ぶ準備を開始する。